

森田茂デッサン展に寄せて

小山 法子

芸術の秋、明野図書館では、しもだて美術館所蔵「森田茂デッサン展」が開催されます。文化勲章受章・茨城県名誉県民・筑西市名誉市民の洋画家・森田茂は、1907年(明治40)、3月に筑西市に生まれ、2009年(平成21)、3月2日に101歳で逝去しましたが、生涯現役で絵を描き続け、画業を究めた日本の洋画壇を代表する画家でした。

森田は、軍医であった父の仕事の都合で、幼年期を下館の母方の祖父母の許で育てられました。1925年に茨城県師範学校本科第二部(現 茨城大学教育学部)を卒業後、地元の大田小学校の図画の教員となりながら、仕事の合間には盛んに油絵を描き、翌年19歳で、茨城県で開かれた第3回白牙会展に「静物」が初入選します。1928年、21歳の時に画家を志し上京。石岡市出身の洋画家・くまおかよしひこ熊岡美彦が主宰する熊岡洋画研究所に入所します。1932年に、熊岡らが洋画団体東光会を設立、森田は翌年の東光会第1回展に出品し入選。以後、連続して入選を果たし、1934年、27歳で第15回帝展(現在の日展)に初入選。1935年には、その後、第二の故郷と呼ぶことになる飛騨高山を訪れ、飛騨祭に出会い多くの作品を描きます。1938年に、東光会員となり、本格的に画家の道を歩み始めます。1966年の夏、画家仲間誘われて山形県羽黒山ふもとの神社に出かけ、楡引町の農民に600年の間伝わる土俗的な黒川能と出会い感動し、その年の日展に出品した「黒川能」が文部大臣賞を受賞し、1970年には、「黒川能」で日本芸術院賞を受賞します。黒川能は、その後の画家のライフワークとなりました。洗練され、約束事の多い中央の能とは違い、素朴な神事としての黒川能は、画家の空想や表現が生かされるモチーフであり、数々の黒川能の作品は森田茂の代表作となりました。

1993年(平成5)に、『我が国洋画壇の重鎮として今日に至り、文楽、能、舞妓や地方山村の祭りに取材し、そこに伝承される民俗文化や民俗感情をテーマに、その写実性を基盤としながらも、一歩踏み越えた豪放、重厚な作風を開拓するなど、市民の風土感覚をにじませた日本的油絵を確立した。』として、茨城県では横山大観・板谷波山に続く3人目の文化勲章受章者となりました。

しもだて美術館には、森田作品の初期から晩年まで、文楽人形、飛騨高山の祭り、黒川能、画壇ではその独特な作風から「森田富士」とも称される富士山、また、下館の夏祭りの象徴である神輿渡御など、華麗な色彩が重なり合う重厚な油彩画作品と、今回ご紹介するデッサン併せて96点が所蔵されています。

今回のデッサンは、文楽座の楽屋に出入りしながら人形の面白さを描いた作品や、黒川能の一瞬の動きを軽やかな筆使いで描きとめ、リズムカルな線の美しさで表現した作品など重厚な油彩画とは違った森田作品をご紹介します。

(こやま のりこ/しもだて美術館副館長)

11月の予定

●明野図書館休館のお知らせ

11月16日(水)～30日(水)まで蔵書点検のために休館いたします。

ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いします。なお、休館中に返却される人は図書館入口の返却ポストをご利用ください。視聴覚資料につきましては、破損防止のため開館後にカウンターにお返しください。

●リサイクル本の無償配布

明野図書館では、図書館リサイクル本を、希望者に無償でおわけいたします。

日時：11月1日(火)～11月6日(日) 午前10時～午後5時まで

※無くなり次第終了します。

場所：明野図書館

リサイクル本の種類：図書・雑誌等



●おはなし会

午後2時から児童室にて

11月6日(日)

『ねんころりん』

『へんしんコンサート』

11月13日(日)

『ぼくのくれよん』

『あしたうちにねこがくるの』

●しもだて美術館所蔵「森田茂デッサン展」

重厚な画風の油彩画とはまた違った軽やかに描かれたデッサン画を約20点展示します。

期間：11月1日(火)～11月10日(木)

午前10時～午後6時(7日は休館)

場所：明野図書館視聴覚室



図書館カレンダー

11月 NOV						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

【開館時間】
午前10時から
午後6時まで

■は休みです。

12月 DEC						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31